

還暦迎え、有言実行

八百屋 博

平成四年一月三日、六十歳の誕生日を迎えたとき、自分の中で何から赤い帽子とチャンチャンコを



着せていただき、還暦を迎えたことを実感させられました。

振り返ってみると、これまで自分中心、一人よがりだがむしやらに生きてきたように思います。

しかし、よくよく考えてみると、家族にささえられ、また仲間や出会った人みんなに助けられ、教えられたり、はげまされたりと、今日があるのは皆さまのおかげと感謝の思いでいっぱいになったのです。

自然や周囲を見渡しても、山川、道、そしてテールやイス、トイレに至るまで、物は言わないけれど、温かく見守ってくれていたのかな。と改めて感謝の思いに至りました。

本当にありがとう！ これからは大事にするからねと胸に誓ったのです。

さあ、これから残る人生は「おまけ」です。自分に出来ることは何だろうと考え、とりあえずまちを明るくするために店の前の街路樹にクリスマス用に電飾イルミネーションを見本として取りつけてみました。

思いのほか好評で、店が面している中央通り全体に広げようと各商店主が協力することになり、岩国市都市計画課に相談の上、山口県土木事務所にも許可をいただきたい、通りの「くろがねもち」四十西口（駅前）から見た新しい岩国駅舎の完成予想図。明るく開放的なイメージになります

八本が電飾されました。

あかりがついたとき、思わずみんなで「バンザイ！」を叫びました。本当にうれしかったですね。

そのとき感じたのは、目標と情熱、そしてみんなの力を合わせればたいていのことは出来るんだということです。

その後、イベントにも乗り出し、中央通りを通行止めにして歩行者天国を設け、「夏祭り」を開催したり、「七夕飾り」を始めたり、さらには岩国駅を盛り上げる会として月一回の駅前清掃活動も始めたのです。

ここでもありがたいことに多くのみなさんのご協力をいただきました。駅前といえば、まちの玄関顔と同じです。自分の顔と同じでペンペン草は無精ひげ、街路や電話ボックスのよこれは垢にも等しいものです。

まちの顔がそんな状態だったら、住む者としてもとても恥ずかしいことです。岩国駅はこれから改築されて、橋上化されることになっていきます。新しく立派な駅として生まれ変わることでしょう。

しかし、ただ、新しくなるのではないけない。街のみんなが心を寄せ合い、駅を大切に思っていて笑顔でつどい、さまざま催しもできる駅にしたい。清掃は小さな活動ですが、コツコツと続けることできつと良き思いが市民に、利用者に伝わっていくはず。

そんな活動にJR岩国駅長さん、日本政策金融公庫岩国支店の

支店長さんモ配下の多くの皆さんと加わるようになってくださいました。いずれも転勤で岩国に来られた方々ですが、意気軒昂で頼もしい応援部隊となりました。そつた皆さんの活動協力に感動した私は今年の正月、何か御礼を申し上げなければすまない気持ちになって、JR、

そして日本政策金融公庫の上部機関、つまりトップの方に活動内容を報告すると共に感謝状を送ることを思いついたので。

日本政策金融公庫の総裁は細川興一さん、JR西日本代表取締役社長の真鍋精志さんです。失礼ながら直接、郵送にて礼状をお届けしました。周囲からは、とても本人には読んでいただけないだろうといわれました。それはそうでしょう。しかし、私はそれでも思いだけは伝えたいと、これまでの経緯をまとめ、心よりの感謝の気持ちを込めて投函したところ、反応が即座にありました。

細川総裁からは、歴代岩国支店長に直接、電話があり、活動をたたえることがあったそうです。佐々木会長からも組織を通じて



自由通路の内部のイメージ図です。駅長に対して活動を高く評価することがありました。

「これこそが地域創生のさきがけです」ということばもいただき、全国の組織で紹介されることになったのです。

地方の小さな都市で、ひとりの還暦おやじが始めたことですが、念ずれば道は開けます。全国に波及するものになるとは、私も望外の喜びでした。

活動を始めてから十三年の時から続きます。これからも微力ながらも有言実行することで、まちは人は変わることを実感しております。（岩国を盛り上げる会代表世話人）